

# 「子どもの保健」における実践構造と評価 — 保育場面に対応できる保育者養成 —

梶 美 保

**要旨：**2018年に保育士養成課程の改訂が行われ、新カリキュラムでは従来の保育士資格必修の「子どもの保健Ⅰ」（講義4単位）、「子どもの保健Ⅱ」（演習1単位）が「子どもの保健」（講義2単位）「子どもの健康と安全」（演習1単位）に改編され、「子どもの保健Ⅱ」の内容が、社会の状況を反映し安全な保育環境の確保という、より保育の場における実践力が求められるものになった。本報告では、今後求められる実践力のある保育士養成のために「子どもの保健Ⅱ」（旧カリキュラム）と「子どもの健康と安全」（新カリキュラム）の共通単元であり、最も重要度が高い「救急処置及び救急蘇生法」単元において、保育の場を想定した演習による対応訓練の授業を実践した。学生は、保育の場における模擬場面を設定したうえで特定の役割を演じることで、保育の場をイメージしながら実践的な学びができることが示唆された。

**キーワード：**子どもの保健 保育実践力 保育者養成 ロールプレイング

## I. 研究の背景と目的（図1）

現代社会のあらゆる課題に対して、「量」と「質」の両面から子どもの育ちと子育てを社会全体で支え、幼児期の学校教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進するものとして2015（平成27）年4月子ども・子育て支援新制度が施行され、認定こども園の推進や地域型保育の創設、地域子ども・子育て支援事業など保育の場が拡大し多様な保育の在り方、子育て支援が整備された。

そして、2017（平成29）年トリプル改定といわれる、保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の3つが同時に改定（改訂）、2018（平成30）年に施行された。3歳未満児を中心とした保育所利用児童数の増加、子ども・子育て支援新制度の施行、子育て世帯における子育ての負担や孤立感の高まり、児童虐待相談件数の増加等の社会情勢の変化を受けたものである。保育所保育指針における改定の要点は、乳児・3歳未満児の保育に関する記載の充実、保育所保育における幼児教育の積極的な位置づけ、安全な保育環境の確保、「健康及び安全」の記載の見直し等である。この背景には保育所等に

おける3歳未満児の在籍割合が高くなったこと、待機児童の87.9%が3歳未満児であること（平成31年4月1日現在で40.9%）から今後もこの傾向が続くであろうこと、主として3歳未満児を対象として創設された地域型保育（家庭的保育・小規模保育・居宅訪問型保育・事業型保育）の増加等がある。

さらに、2018（平成30）年改訂、2019（平成31）年4月施行予定の保育士養成課程カリキュラムでは、上記のような保育を取り巻く社会情勢の変化、保育所保育指針等の改定等を踏まえ、より実践力のある保育士の養成に向けたものを目指して改訂された。その具体的な6つの見直しの方向性の3つめに養護の視点をふまえた実践力の向上がある<sup>(注1)</sup>。そして保健的観点に基づく保育の環境整備や保育所における感染症対策ガイドライン（2018改訂 厚生労働省）、保育所におけるアレルギー対応ガイドライン（2019改訂、厚生労働省）、教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン（2016 内閣府・文部科学省・厚生労働省）等の各種ガイドラインをふまえ心身の健康・安全管理の実施体制など、実践的な力を習得させるとして関連する教科目の

整理充実を図り、「子どもの保健Ⅱ（演習1単位）」が、「子どもの健康と安全（演習1単位）」に教科名が変更された。系列も「保育の内容と理解に関する科目」から「保育の内容と方法に関する科目」に変更され、より保育所保育指針の内容が実践できるような授業内容が求められている。

本改訂では「乳児保育」の講義科目が新設されたものの、「子どもの保健」関連科目は、全科目単位の中の科目の占める割合が縮小してきている。内容についても本科目「子どもの保健Ⅱ」は、「実習」であったものが、2001（平成13）年から

は「演習」科目となってきた経緯がある。今回の改訂では「子どもの保健（講義2単位）」、「子どもの健康と安全（演習1単位）」（4.4% 全68単位中3単位）となった。当初は、戦後復興期における当時の衛生状態や子どもの健康状態から小児保健科目の占める割合が多く、乳幼児死亡率の低下とともに社会状況が改善されるにつれて「子どもの保健科目」の割合が徐々に減少したのは当然のこととしても昨今の保育所の3歳未満児が急増している状況において納得できないものがある。

ただ、今回の改訂は前回（2009年）の改訂の方

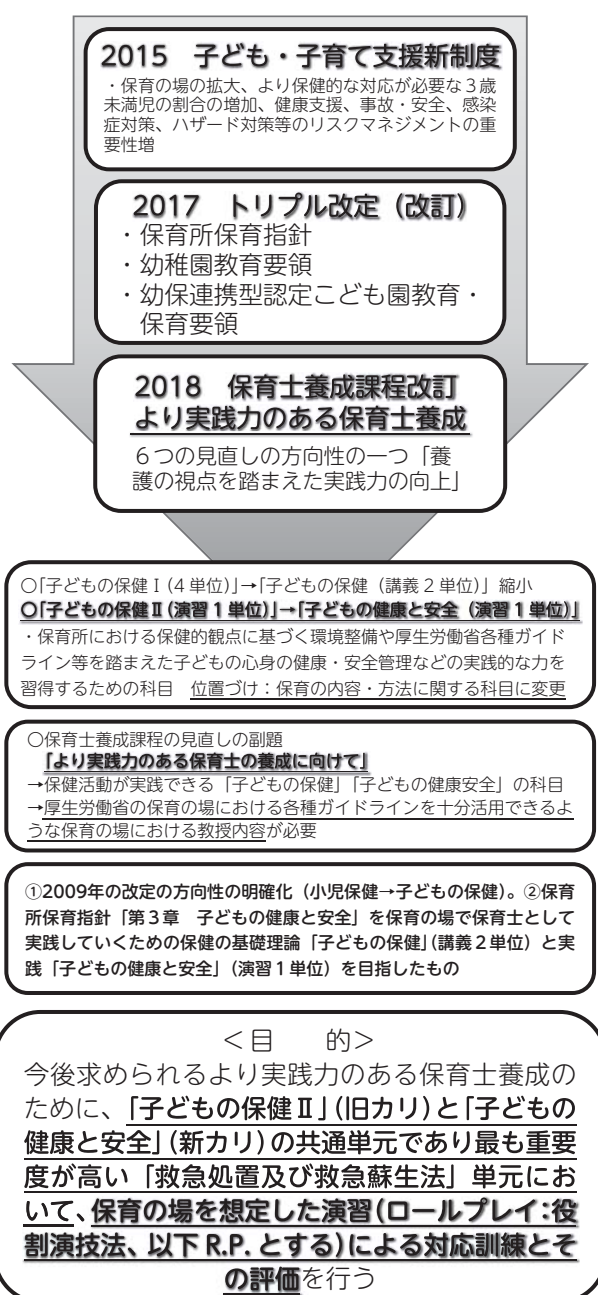


図1 研究の背景と目的

向性、つまり「小児保健」から「子どもの保健」と科目名が変更されたこと、医療福祉分野の一般的な小児保健ではなく「保育の場において保育士の行う保健活動に必要な理論と保育活動ができる基盤」つまり「保育の場」「保健的対応」「子ども集団全体の健康と安全」の3つの視点がより明確化され、保育所保育指針「第3章 子どもの健康と安全」を保育の場で保育士として実践していくための保健の基礎理論「子どもの保健」と実践「子どもの健康と安全」を目指したものとなっている(梶2018)。

本研究では、今後求められるより実践力のある保育士養成のために<sup>(註2)</sup>、「子どもの保健Ⅱ」(旧カリキュラム)と「子どもの健康と安全」(新カリキュラム)の共通単元であり最も重要度が高い「救急処置及び救急蘇生法」単元において、保育の場を想定した演習(ロールプレイ:役割演技法、以下R.P.とする)による対応訓練とその評価を行うものである。

## Ⅱ. 研究方法・内容

対象となる保育者養成校の概要と子どもの保健カリキュラムの位置づけ、内容:

皇學館大学教育学部教育学科は、定員210名の教育学科単科の学部で、学校教育コース、スポーツ健康コース、特別支援コース、幼児教育コースから構成され、幼児教育コースの学生は80名である。一部を除き2年でコース専攻を決定するために1年次には幼児教育コースの専門科目は少ない。子どもの保健Ⅰは、3年通年(5・6セメスター)他コースの学生とともに130名規模で授業)、子どもの保健Ⅱ(6セメスター、幼児教育コース学生のみ、2クラス)は、3年秋学期に配置されている。講義内容は表1のとおりである。「成長・発達」「事故と安全」「衛生管理」等の講義内容項目の重複が多い「保育内容 健康」(2年秋学期 本学では健康指導法)、「乳児保育」(3年春学期)の科目はすべて筆者の担当であることからセメスターの進行に沿って内容を整理・調整し進めている。また、本校では、演習半期2単位となっていることから、子どもの保健Ⅱ(演習1単

表1 子どもの保健Ⅱ(演習1単位)の講義内容

|     |                                     |
|-----|-------------------------------------|
| 1回目 | ガイダンス 保健活動 手洗い                      |
| 2回目 | 生理機能の測定, 身体測定                       |
| 3回目 | 養護技術                                |
| 4回目 | 子どもへの病気への対応・手当<br>①症状別手当て エピペン含     |
| 5回目 | 〃 ②けがの手当て                           |
| 6回目 | 〃 ③心肺蘇生法(以下CPR) 写真1                 |
| 7回目 | ※保育の場における対応訓練<br>(CPR, AED, エピペンなど) |
| 8回目 | 集団保育と保健 まとめ                         |



- ・乳児CPRマネキン(10)
- ・小児蘇生人形ジャミーⅡ(1)
- ・レサシ(6)
- ・成人レサシ(3)
- ・AEDトレーナー(8)  
(AED10機, レサシ5体は借用)

写真1 CPRのグループ演習の環境(2018当時)

位)は、8コマの講義となっている。

本研究の対象: 本学幼児教育コース79名(欠席者1名)。期間: 平成30年11月29日および12月6日(両日ともに同じ内容)。

内容・方法: 内容は「保育の場における緊急時の対応」であり3事例(表2)を準備した。学生は8~9名で1グループとし、最初に事例ワーク用紙に沿って説明後、グループ練習(20分)、発表(10分)、講評(2分)、グループでの話し合い後と振り返りシート記入(15分)の時間配分とした(表3)。事例ワーク用紙に沿って「クラスの状況設

表2 提示した3事例

|  | 状況   | 必要物品とスタッフ   | 手順 (個別技術は授業済)   |
|--|--|---|---|
| 事例<br>1)<br>14:00<br>0歳児<br>お昼寝<br>中   | 保育室<br>10か月のAちゃんが息をしない!他に3人の園児                       | <物品><br>CPR人形<br>AED<br>モデル人形3体<br>携帯電話<br><br><職員><br>園長・主任・<br>保育士2名・救急隊員 | ・初期対応: 応急処置ができるように場所を確保<br>他の園児をその場から離す<br>(他児の保育担当 指示)<br>・反応確認 呼吸の確認 救急車手配 119番通報<br>(担当 )<br>・様子観察 ※子どものそばから離れない<br>・心肺蘇生・AED装着<br>・救急車を駐車場、部屋までの誘導(担当 )<br>・保護者連絡(担当 園長 or 主任)<br>自治体担当部署への連絡     |
| 事例<br>2)<br>11:40<br>4歳児<br>給食中        | 保育室<br>20名<br>給食中Cちゃんが嘔吐、苦しうにしている? アナフィラキシーショック?     | <物品><br>モデル人形<br>AED<br>エビペン<br><br><職員><br>園長・主任・<br>保育士2名・救急隊員            | ・初期対応: 応急処置ができるように場所を確保<br>他の園児をその場から離す<br>(他児の保育担当 指示)<br>・反応確認 呼吸の確認 救急車手配 119番通報<br>(担当 )<br>・様子観察 ※子どものそばから離れない<br>・エビペン・AED装着<br>・救急車を駐車場、部屋までの誘導<br>(担当 )<br>・保護者連絡(担当 園長 or 主任)<br>自治体担当部署への連絡 |
| 事例<br>3)<br>10:30<br>3歳児<br>プール<br>遊び中 | 園庭<br>園児6人がビニールプールで遊び中、保育士が、顔に水をつけたままの状態で見えているB男を発見! | <物品><br>ジャミーII<br>AED<br>バスタオル<br><br><職員><br>園長・主任・<br>保育士3名・救急隊員          | ・初期対応: 応急処置ができるように場所を確保<br>他の園児をその場から離す<br>(他児の保育担当 指示)<br>・反応確認 呼吸の確認 救急車手配 119番通報<br>(担当 )<br>・様子観察 ※子どものそばから離れない<br>・心肺蘇生・AED装着<br>・救急車を駐車場、部屋までの誘導(担当 )<br>・保護者連絡(担当 園長 or 主任)<br>自治体担当部署への連絡     |

表3 内容及び時間配分 (全体90分)

|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス: 演習説明 (5分)</li> <li>・グループ練習: 役割分担, R.P.のシナリオ作り, 練習 (20分)</li> <li>・発表: 各グループ12分×4グループ (50分)<br/>(質疑応答・講評含む)</li> <li>・グループでの振り返り (15分)</li> </ul> |
|---|

定」「役割分担」決めを行う。また、どのようなR.P.をすると効果的であるか、より現場の状況に近づける工夫を考えながらストーリーを作り練習する。授業終了後グループの振り返りシートはその場で、個人振り返りシートは後日提出とした。

振り返りシートを検討分析し授業の評価を行う。また個人の振り返りシートは、「自己のグループの振り返り」と「他のグループ1つを選択してコメントを書く」項目を設定しているが本報告では自己のグループの振り返りのみに限定して報告する。



図2 R.P.の流れと様子

### Ⅲ. 結果

#### 1) 演習の様子

グループ毎に園の状況についての設定や役割やせりふ、行動について打ち合わせを行い練習させた。R.P.は、初期対応としての応急処置ができるように場所の確保や他の園児をその場から離す（他児の保育担当 指示）こと、対象園児の反応確認、呼吸の確認、救急車手配 119番通報手順、様子観察や心肺蘇生・AED装着などの技術、救急車を駐車場、部屋までの誘導、保護者連絡、自治体担当部署への連絡等の一連の内容である。事例③のみ子どもの意識があり、嘔吐という症状があったので対処の方法について検討し、準備備品として「嘔吐処理セット」の申し出があった。

講師は4グループを順に見回り、必要に応じて助言を行った。助言内容は「実際に保育の場だったらどういう状況になるのか、行動をとるのか」

など実際の場に合った行動を想起させるロールプレイが、臨場感のあるものになることを心掛けた。ほかには子どもの症状や他の子どもの行動、周りの保育士の言葉がけなどである。

発表のR.P.では照れもなく、どうどうと発表し、発表者以外の学生も集中して他グループの発表を見ていた（図2）。

#### 2) 振り返りシートに記載された学生の学び

##### (ア) グループ

グループの振り返りシートはその日のうちに提出させた（両日4グループ、計8グループ分8枚）。振り返りシートで検討するとした項目は、「環境を整える」「電話連絡」「救急処置の評価」「役割分担と連携」である。

○環境を整える：事例①では「速やかに他の子どもを別の部屋に移動する」、「CPRは布団から硬い床に寝かせて実施する」ことなど、事例②で

は「他の子どもたちをプールから出して他の場所に移動する」、「該当の幼児は身体を拭き乾いた硬い場所に寝かせる」ことなど、事例③は「換気、適切な嘔吐処理」「他の子どもを別の部屋に速やかに移動」など延べ19件の記述があった。

○電話連絡：「救急車及び保護者に伝える」「必要なことを簡潔に伝える」「メモを取り的確に伝える」など14件の記述があった。救急処置：「人工呼吸は鼻をつまむ」「胸骨圧迫の速さ」「行動を口に出すこと」など27件の記述があった。

○役割分担と連携：「園長、主任のリーダーシップが大切」(3)、「自主的、積極的に動く」(2)、「自己の行動をきちんと報告し情報を共有する」(2) など13件の記述があった。

#### (イ) 個人

個人の振り返りシートは、79名(100%)の提出があった。

事例①では、27名、延べ115件の記述があった。「救急処置」では63件の記述があり、胸骨圧迫のテンポ・深さ、人工呼吸の時に胸のふくらみを見ながらなどの「胸骨圧迫と人工呼吸の技術」に関するものが37件、次いで「AEDの使用方法」11件、「記録」4件と続く。「役割分担・連携」では44件の記述があり、「他の保育者に伝わるように自己の動作を大きく口に出している」14件、「園長・主任がリーダーシップをとる」9件、「その他の学び」では、16件の記述があり、設定をしっかりとR・Pをする、実際の現場に合った内容での研修が大切、全体のイメージをもっと想像力をもって真剣に取り組むべきであったなど「シミュレーション学習の重要性」に関する記述が8件であった。

事例②では、17名、延べ104件の記述があった。「救急処置」では76件の記述があり、「AED」に関するものが最も多く、なかでも「水気のない硬い場所で実施する」と記述したものが17件、「他児の誘導」10件、「明確な記録」6件と22件の記述があり、続く。「役割分担・連携」では、「適切な役割分担」13件、「主体的な行動」4件、「園長のリーダーシップ」1件であった。

事例③では、35名、延べ169件の記述があった。

「救急処置」では、99件の記述があり、「症状が軽くてもAEDの準備をする」が最も多く15件、「初期症状の嘔吐の処理」に対して21件の記述があった。「エピペンの本人確認」13件などである。役割分担、連携に対しては、「自己の行動を声に出して言うことで情報共有をする」が15件、「園長のリーダーシップ」が7件などである。

一つのグループの発表後、学生、講師が講評していることから、次の発表グループが指摘事項を修正して発表していったことから、予想されたことであるが最後に発表したグループの方がポイントを押さえて発表できるようになっていった。

## IV. 考察

救急技術の習得だけではなく、保育の場面を想定して演習をすることにより、より実践的な学びを得るためのR.P.による対応訓練による授業を企画した。学生にとってのロールプレイングの意義は、より現実の保育の場における模擬場面を設定したうえで、特定の役割を演じることで、修得した技能の完成度を図ったり、そこで起きる問題点や課題点に対する解決方法を考えさせることができる。症状発見、初期対応、救急搬送、救命処置などの流れがわかり保育の場の他の職員と連携し現実を想定しイメージしながら振り返ることができることが確認できた。

磯部(2017)は、同じく保育者養成校の学生対象に一回の演習でどの程度の組成スキルを修得できるかの調査を行い、その結果として80%以上の学生が心肺蘇生に自信を持ったこと、小児の一時救命処置を身につけるには少なくとも2回的心肺蘇生講習が必要であろうと考察している。今回は、一度目には個々の技術(写真1の環境で実施)、そして「保育の場」を想定して実践的におこなうことにより演習の有効性が高まったのではないかと考える。

しかしいくつかの課題がある。一つは単元の時間数の問題である。1単位当たりの授業時間は各大学により決まっており、多くの保育者養成校は半期1単位であり標準の15コマであるが、本大学は「演習半期2単位」となっていることから、本

科目は8コマで完結しなければならない。筆者が多く関連科目を担当していることから合理的に「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準」(厚生労働省)の教授内容をふまえて展開しているが、担当が非常勤の看護職が多い本科目は関連科目の連携が困難であろう。

また、山田(2012)によると現役保育者対象の調査で、保育者養成校の段階で救急蘇生法の実技の経験者がわずかに16.6%であったという報告がある。あとはビデオあるはデモ、講義となっている現状が推察される。現実に演習は1クラス50人程度とされているが、この50名を1名の教員で実技習得を目指すということは少々無理がある。筆者も、個々の技術は、その単元で押さえ、このR.P.では、それだけではなく広く「保育の場」では何が必要とされるかについて考えることができること、このような気行き管理の技術は、平常時の備えとしての訓練が必要なので定期的に研修をしていくことが大切なのだということの理解を眼目としている。

今回の対応訓練は、2019(平成31)年より実施の改訂保育士養成課程カリキュラムに求められるであろう「子どもの健康と安全」科目の教授内容を意識しての試行である。学生の振り返りシートにより、保育の場で現実に起こる場面を想定して、緊急対応に対しての有効な実践力を培うことに一定の意識付けや効果はあると考えるが客観的評価に乏しいことから今後、R.P.の提示を含め検討していきたい。

本稿は、日本保育学会第72回大会(2019年5月4日、大妻女子大学)でポスター発表した原稿を加筆修正したものである。

注1) 2018年4月27日の厚生労働省(通知)「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部改正についてである。保育士養成課程等検討会(2017年12月12月4日)「保育士養成課程等の見直しについて(検討の整理)」によると、見直しの方向性として、①3歳未満児を念頭に乳児保育の充実、②幼児教育の実践力の向上、③「養護

の視点重視、④子どもの育ちや家庭支援の充実、⑤社会的養護や障害児保育の充実、⑥保育者としての資質・専門性の向上の6点があげられ教科目が検討されている。

注2) 「保育士養成課程等の見直しについて(検討の整理)」には「より実践力のある保育士の養成に向けて」という副題が付されている。これは社会的養護全般に関する座学と実学の中で実学的視点の強化を目指しているものであるといえる。

## 文 献

- 磯部健一(2017)子どもとかかわる職種を希望する非医療系学生に対する小児一時救命処置演習の検討高松大学研究紀要第69号 pp.1-13.
- 今井景子 弓田安希子(2018)保育者養成校におけるアドレナリン自己注射(エピペン)演習の項かと課題 こども宝仙大学大学紀要9(2), pp.85-93.
- 梶美保(2016)保育士養成課程科目「子どもの保健I・II」の教授内容の検討—保育士養成テキストの分析— 皇學館大学教育学部研究報告集 第9号, pp.1-12.
- 梶美保(2018)改訂保育者養成課程で求められる教授内容の検討(子どもの保健周辺科目を中心に—中部教育学会第67回大会 於)名古屋市立大学
- 厚生労働省(2017)保育士養成課程等検討会 保育士養成課程等の見直しについて~より実践力のある保育士の養成に向けて~(検討の整理) <https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000209195.html>
- 厚生労働省(2019)保育所等関連状況取りまとめ(平成31年4月1日) [https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000176137\\_00009.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000176137_00009.html)
- 内閣府 子ども・子育て支援新制度HP <https://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/>
- 山田恵子(2012)乳幼児の小児一時救命処置に対する保育士の認識と現状 日本小児看護学会誌 21-1 pp.56-62.

## Structure of Practice and Evaluation in Child Health Practice: Nursery Teacher Training that is Effective in Childcare Settings

KAJI Miho

In 2018, the Nursery Teacher Training Course was revised, and in the new curriculum, Child Health Practice I (lecture, 4 credits) and Child Health Practice II (seminar, 1 credit), which were compulsory for qualifying as a nursery teacher under the old curriculum, were reorganized as Child Health Practice (lecture, 2 credits) and Child Health and Safety (seminar, 1 credit), respectively. The content of Child Health Practice II was adjusted to meet the need for more practical skills in childcare settings, that is, to reflect social conditions and ensure safe childcare environments. This report describes a study in which lessons consisting of response training in a simulated childcare setting were conducted on First Aid and Resuscitation to train nursery teachers with the kind of practical skills that will be required in the future; this is a crucial unit that was included in both Child Health Practice I (old curriculum) as well as Child Health and Safety (new curriculum). The results indicated that by acting out specific roles in simulated childcare settings, students were able to learn practically while visualizing childcare settings.

**Keywords** : Child health, practical skills for childcare, nursery teacher training, role playing